

平成 27 年度総合研究大学院大学アジア冬の学校 (AWS2015)

石 黒 静 児

核融合科学研究所 (NIFS) に併設されている総合研究大学院大学 (総研大) 核融合科学専攻による総研大アジア冬の学校が平成 27 年 12 月 1 日から 4 日まで NIFS と分子科学研究所 (岡崎市) で開催されました。今回は、分子科学研究所に併設されている構造分子科学専攻及び機能分子科学専攻との合同開催となり、中国、台湾、インドネシア、マレーシア、ネパール、タイ、ベトナムの 7 の国と地域から 18 名、国内からは 12 名の合計 30 名のプラズマ・核融合及び分子科学に関心を持つ学生や若手研究者が参加しました。その内訳は学部生 6 名、大学院生 22 名、若手研究者 2 名となっています。

核融合研究入門、プラズマ分光、プラズマ粒子シミュレーション、磁場閉じ込めプラズマの理論、プラズマ壁相互作用に関するシミュレーションなどプラズマ・核融合に関する講義及び分子構造、電池など分子・材料科学に関する講義が行われました。これらの講義に加えて、大型ヘリカル装置 (LHD)

の見学、バーチャルリアリティ (VR) の体験実習及び分子科学研究所の極端紫外光研究施設の見学、さらには参加者及び NIFS で活動している学生や研究者によるポスター発表が行われ、活発な議論・交流が見られました。

この総研大アジア冬の学校は総研大物理科学研究科の 5 専攻の教育・研究活動を国内外の学生や若手研究者に広く紹介するために、平成 16 年度より毎年冬に開催されています。今年度は、「世界を眺める新しい目」を 5 専攻共通テーマ、「未来のエネルギーへの複合的アプローチ」を核融合科学専攻、構造分子科学専攻、機能分子科学専攻のサブテーマとして開催されました。

(基礎物理シミュレーション研究系 研究主幹・教授)
総合研究大学院大学・物理科学研究科・核融合科学専攻/併任



LHD 制御室見学



ポスター発表風景



参加者の集合写真